

## 平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	協働による元気な里山づくり推進事業
対象地域	茨城県 常陸太田市 里川地区
対象地域の概要	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【高齢化による耕作放棄地の増加】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【山の管理者が離れ荒れていく山々】</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>茨城県</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>里川地区 旧里美村 常陸太田市</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">【位置図】</p>
提案内容の概要	<p>地域住民が集い語り合う機会や都市住民との交流など、より多くの交流の機会を創出し、地域の活気を醸成する。</p> <p>①里川地区の伝統文化の継承、復活した鳥追い祭りの継続、次代の担い手育成          ②里川地区の集落環境維持—遊休農地活用(里川カボチャの耕作)、山林管理運営支援、サインの整備          ③新たな交流の場創設—桜並木、溪谷遊歩道近辺におけるベンチや休憩所の設置</p>
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>平成17年から平成21年までの4年間に世帯数が2件減り、人口も24名減少している。地区のコミュニティ存続のためにも、これ以上の人口減少を食い止める必要があるが、里川地区内で多くの人が生計を立てられる産業は存在しないため、地区外への転出者も多い。また、人がいなくなることで、畑や山林が荒れ始めている。一度荒れてしまった畑や山林は、耕作できる状態や伐採できる状態、つまり、収入に繋がる状態に戻るまで、大変な苦勞を要する。本格的な管理とまではいかなくとも、定期的に人手を投入できるような仕組みづくりが必要である。</p> <p>さらに、昨年度の取組を通じて、地域外の住民を集める手法が未だに確立していないことが課題として挙げられる。昨年度は町会からの呼びかけや市の広報、NPOによるメールリストの活用など、幅広い手段を用いて人を集めたが、里川地区に通うようになった固定の都市住民は片手で足りる数に過ぎない。それだけでも素晴らしいことだが、今後、そのような人たちを引き繋ぎ、また、より多くの里川地区のファンを増やすこと、里川地区の住民達とそのような都市住民との直接的なコネクションを築くことに加え、交流人口を拡大するため、地域の魅力のさらなる向上を図る必要がある。</p>
(2) 活動内容の案	<p><b>活動①</b> : 里川地区の伝統文化の継承、次代の担い手育成</p>

地域の伝統文化を継承し、次世代を育成するため、昨年度に引き続き「里川の歳時記を語ろう会（里川講）」を実施する。「いきいきサロン」の機会を利用して、地域の「生き字引」であるお年寄り達から昔の年中行事や慣習について話を聞き、その集大成として、地域内の人も、地域外の人も読んで楽しめるような冊子・本にまとめあげる。口伝ではなく、目に見えるものとして伝統文化を残すことで、その冊子をツールとして地域の人々が思い出話に花を咲かせ、地区外の人々が里川地区を知ることができるものとする。

また、昨年度復活させた「鳥追い」行事を今年度も開催し、里川地区の出身者や縁故者を中心に、都市住民等へも広く周知し、そのような人と地域住民とで交流する機会を持つ。

伝統行事の復活と文化の継承を図るだけでなく、鳥追い小屋の作成から繭玉作りまで、老若男女問わず集う機会の提供であるのと同時に、「鳥追い」はこの地区の人たちが子どもの頃に必ず体験している行事であり、その体験を思い出すことで郷愁を誘い、里川地区へのリターン、若しくは、里川地区で行われる数々の事業やイベントへの参加を促す。

**活動②**：里川地区の集落環境維持

昨年度、都市住民等とともに耕起した畑を利用し、「里川カボチャ」を育てている地域住民を講師として、都市住民を招いて種蒔や苗の植え付けから収穫まで、年間を通した農業体験プログラムを組み、この地区の特産品である「里川カボチャ」を栽培する。また、収穫したカボチャを調理して加工品の企画を行い、加工品の販売を目指す。

さらに、昨年度に引き続き、里川地区で執り行われる林業教室に合わせて、都市住民を招いて山林管理の勉強会を行うとともに、地域の相互扶助の仕組みである「結」を復活させ、「結」で行われる作業に、都市住民も参加するようにし、より様々な主体が参加できるようにする。また、間伐材を用いて工芸品やベンチなどの木工体験を実施し、その授業料・体験料や、使用器具のリース料等を徴収の検討などを通して、地域マネージメントの検証を行う。

また、昨年度植樹した桜について、地域の人々を「桜守」として桜の管理を行い、枯れた桜の植え替えや、紅葉など他の広葉樹の植え付けを行い、里山の管理を地域住民が一体となって行う。

桜を植えた七反集落と里川宿集落については、植樹した桜の周辺の整備を行い、間伐材を用いたベンチや東屋を設置し、近くの水路にホタルを放し、春は桜を楽しみ、夏はホタルを楽しみ、秋は桜や紅葉の紅葉を楽しみ、年間を通じて楽しめる「憩いの場」を形成する。

**活動③**：新たな交流の場の創設

地域のシンボルである七反のシダレザクラを中心として、「新たな公」の昨年度事業では里川宿の桜山が整備され、19年度の国土施策創発事業の縁から山形県白鷹町からエドヒガンザクラを譲り受けたが、それらの桜を見守る場所として、現在の直売所を活用し、新たな交流の場を創設する。現在の直売所は、里川地区の農産物を販売する場所であるのは当然だが、組合員が自分の作った料理を持ち寄り、そこに買い物に来た地域住民や都市住民等とその料理を食べながら語り合う憩いの場となっている。その本来の姿を残しつつ、①地域の住民が憩う場所、②農業体験等で訪れた都市住民が立ち寄って憩う場所として、飲食を可能な場とし、さらに季節の作物だけでなく、漬物や加工品の販売を検討するなど、年間を通しての営業を検討するなど、収益の向上を目指す

また直売所の活用だけでなく、地域のコミュニティセンターも併せて活用を図る。

応募団体名	里川町会
リンク	
部局／担当者名	里川町会長 荷見 誠
連絡先	
推薦市町村名	常陸太田市